

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392000218		
法人名	社会福祉法人 さわらび会		
事業所名	認知症対応型グループホーム カサ デ ヴェルデ (あやめユニット)		
所在地	豊橋市杉山町字泉原139-1		
自己評価作成日	平成25年12月29日	評価結果市町村受理日	平成26年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市中千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さわらび会、山本孝之理事長の理念である「みんなの力でみんなの幸せを」をモットーに認知症介護三原則の1.いつも暖かい愛情と笑顔で2.決して叱らず制止せず3.今出来る事をして頂く3.今出来る事をして頂く。この理念を常に念頭に置きサービスの提供に努めております。カサデヴェルデは、閑静な住宅街にあり豊橋鉄道渥美線杉山駅徒歩20分かかりますが緑が多く静かで過ごしやすい環境で生活されております。居室にはトイレもあり夜間も安心して排泄できますし、使い慣れた家具を持ち込んで頂きながら明るく家庭的な雰囲気の中生活していただけます。カサデヴェルデは小規模特養と認知症型デイサービスが併設された施設となり、また同じ社会福祉法人内には特養や包括支援センターや居宅支援事業所もありその人の状況や要望にあったサービスを提供する事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者家族の協力や、法人内の連携体制を活用し、入居者ご自身に、今出来ることをして頂きながら、自立した生活の実現に取り組んでいる事業所である。また地域密着型の機能、役割が地域に理解され、協力関係が構築されるよう、職員が一丸となって取り組んでいる事業所である。具体的に、雨水貯水設備や太陽熱温水器の設置、入居者、家族、地域住民へ提供できる量の備蓄品の確保で、非常災害時の避難場所として受け入れが可能であることの周知を図っている。また、積極的に地域貢献活動に参加したり、逆に非常災害時の協力を依頼している。実際に、近隣住宅で火災が発生した際、避難住民の受け入れや雨水貯水の提供で、二次災害防止に寄与した経験がある。家族との関係づくりにも尽力しており、家族会の結成、受診時の通院や行事の送迎、備品の補充等、家族の来所機会を増やし、入居者と共にホームとも交流図れるよう配慮している。このように、社会資源を活用していく姿勢はまさに法人の理念の実践といえる。今後、これらの取り組みがどのように実を結んでいくか注目していきたい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時、理事長提唱の「認知症介護三原則」を唱和し、いかなる時も理念を念頭に置きサービスに努めております。職員の名札に入れて意識付けを行っている。	認知症介護三原則を毎朝唱和すると共に、各職員は、理念が印刷された名札を携帯し業務に当たっている。理念の実践として、見守り重視の、先回りの援助を避けた支援を職員間共通の意識で行っている。また、出来る事をその方のペースで行っていただく事、笑顔で関わる事も念頭に置いて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板にて地域情報の把握に努め、廃品回収などに参加したり又、近くに公園があり散歩に出かける時は近隣の方と挨拶をする関係をしております。	町内会に加入しており、回覧板にて情報収集している。廃品回収へ年3回参加、保育園父母会のゴミゼロ運動に年2回参加している。近隣へは、職員が積極的に挨拶し、交流関係を深めている。近所に火災が発生したことがあり、その際、消火や救助活動に貢献している。	地域にホームが浸透するよう、今後も地域への働きかけを継続し、関係構築に取り組まれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園、母の会資源回収では施設前に回収に来て頂いたり中学校の福祉体験の受け入れを行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では活動報告や勉強会が行われておりサービスの向上にいかしています。	併設の特別養護老人ホームと合同で利用者家族、校区長、自治会長、民生委員、社会福祉協議会の参加で今年度は三回開催された。ホームの活動報告や、情報交換をしたり、看護師による脱水や感染予防の勉強会を開催し、ホームの役割や機能を地域へ還元する機会づくりの場として会議を活用している。	参加者同士が顔なじみとなり、親交が深まるよう開催回数を増やし、運営推進会議が地域との交流の場に活かされることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方とはあまり多くはないですが連絡を取り相談に乗って頂いている。運営推進会議への参加はお願いしている。	豊橋市の長寿介護課と、入居の利用状況等の報告や相談を行っている。市や県の開催する研修や、豊橋市老人福祉施設協議会開催の勉強会に参加している。社会福祉協議会の会議にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全性を考慮して玄関やエレベーターの入り口には施錠がある。ユニット間は自由に行き来している。どのような事が拘束にあたるかを話し合っけて拘束をしないケアを意識している。	安全性を重視し、エレベーターは電子ロックを設置しているが、外出希望の方がいれば一緒に階下へ下りている。拘束の必要性が生じた場合は、家族への連絡体制を備えており、入居時にも説明している。職員間では、ヒヤリハット事例検討時に確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を作り勉強会にてどのような事が虐待にあたるかを話し合い意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について制度を理解できるよう勉強会の検討していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情窓口について説明しており職員も面会時は状況報告をしており家族会や外出行事に家族様へ付き添い依頼するなど関わりを持っている。多くの意見を頂くにはアンケートの実施を検討していきたい。	月一度の家族会デーで、交流促進を目的に、ホームに奉仕活動いただいている。行事や外出、受診の他、入居者の日用品の補充も依頼し来所されているため、ホーム内をよく見ていただいている。今回のアンケート調査での多数の声からそれが伺い知れる。職員の顔入り名札は、家族からの要望が反映されている。		ホームへ高い関心を寄せて下さっているご家族と、更に深い信頼関係が築かれるよう取り組んでいかれる事を期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案がある場合は出来るだけ意見を聞いて解決へと努めております。今後は面談等職員個々に話を聞いて職員の意見の反映に努めたい。	申し送りやユニット会議時に聞き取る他、随時口頭で聞いており、内容は管理者へ上がっている。業務実施曜日の変更の提案で円滑な作業が実現した等、職員の声で改善が図られている。年に一度、理事長へ文書で直接、職員自身の声を届ける機会があり、職員の待遇については、経営会議で話し合われている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一回法人の代表者へ一人一人がメッセージを届ける機会があります。職員のキャリアに合わせた研修会が企画され参加している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内には研修計画に基づいた研修会があり認知症の事や医療の事など様々な内容を学ぶ機会がありそれぞれのレベルに合った研修が企画され参加している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他施設への交流や豊老協へ参加しており職員交流会が行われた。今後はより多くの職員が交流会に参加できる機会があればよいと思います。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時によくお話を伺うようにしている。本人の傾聴をして生活歴から本人と生活を考慮したり携わる職員からの情報を共有する。又、入居当日に受け入れカンファレンスを実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時に家族やケアマネージャーからお話をお聞きしております。又、入居当日に受け入れカンファレンスを実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、家族、本人と話し合い法人内の他施設・協力病院とも連携し、その時に必要なサービスを見極める努力をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し、洗濯たたみ、掃除、調理等理念を大切に生活の中で時間がかかっても出来る事は行って頂いております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状況報告を時にはケース記録を使って行ってご本人の現状理解を共有している。又、本人様を思う家族の気持ちを反映したケアプランも行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	多い少ないはありますが、家族、知人の面会があります。又、病院受診は家族様をお願いしている事もあり受診して昼食を自宅や外食して戻られる方もおります。	馴染みの関係が維持されるよう、家族に、受診や馴染みの場所への外出等、入居者の個別の支援を依頼している。その日急な外出でも可能。有志の家族に絵手紙講座を開いてもらい、年賀状支援をしている。面会場所は自由だが、感染リスクの高い時期のみ、他の入居者不在の1階へ案内し、感染予防に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者同士の相性や状態をみてリビングの席や配置を考えてトラブルにならない様見守っております。毎朝の体操やレク、行事など合同で行われ他ユニットとの交流も多い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内の他施設に入所された際は、機会がある時は面会したり家族に連絡したり声をかけております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り希望に寄り添ったケアに努めており、これまでの生活歴からも把握するようにしております。	意向が捉えにくい方の意思確認には、反応を見て対応している。「閉じた質問」を用いたり、レク等の参加の様子から探り、把握に努めている。時間がかかっても、なるべくご自分で行ってもらう姿勢で、均等な声かけや見守りを行っている。新たな気づき等は、担当職員が24時間シートに記入している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を利用し本人の生活歴や好みなど把握に努めている。本人や家族からお聞きして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を利用し本人の生活歴や好みなど把握に努めている。本人や家族からお聞きして把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日ケアプラン実施表でケアプランの確認をしております。毎月、月末に評価してケア内容を見直しており現状にあったケアプランを作成しております。	3か月に一度、ケアプラン実施表、24時間シート、日常のチェックシートを活用し、モニタリングを兼ねたカンファレンスを開催。必要があれば見直しをしている。家族とは、見直し前に希望を聞き取り、作成後に同意確認をとっている。職員とは申し送り共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録はその都度記入し出勤時には申し送りノートとケース記録の確認をしております。受診者情報は各担当者が記入するが偏りが無い様他職員も気づきメモを渡してユニットの意見を反映してます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員で出来る範囲はケアカンファレンスを行い対応しますが家族の協力が必要な場合は報告相談しております。他サービスへの移行等、情報提供をしております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧場にて地域情報を把握し、保育園母の会の資源回収では施設前に来て頂き、近くの公園に散歩に出かけた際は挨拶する関係です。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に受診は家族へかかりつけ医への受診をお願いしております。対応が困難な場合は協力病院につき施設で対応しております。受診等の相談は日中、夜間共に協力病院へ相談できる。	かかりつけ医への、家族通院が基本だが、夜間時等の相談は協力病院が行っている。入居時の協力病院による健康診断でカルテを作成しているため対応が可能。通院時、同行希望があれば支援している。各入居者に「受診者情報」を作成し、家族を介してかかりつけ医と連携を図り、緊急時にも応用している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良や変化が見られた場合は協力病院の看護師へ相談し指示をもらうようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も時々様子を見に伺ったり、ご家族様へ連絡し情報の把握に努めている。病院関係者と退院カンファレンスに参加するなど連絡をとり情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、看取りは行っていないが看取り介護事前指定書にてご家族様の本人の意向を確認している。重度化した場合は家族や法人内の特養や病院関係者とも連絡を取り合い相談している。	医療依存度が高くなり、健康管理が必要となった場合、他の介護保険施設等への転居を考えていただいている。その際は、家族へ法人施設の案内をしたり相談に応じる等、受け入れ先が決まるまで不安のないよう支援している。ホームから併設の特別養護老人ホームへ移動した例がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットのファイルに急変時のマニュアルがあり誰でも確認できるようにしている。救命講習を実施しているが今後は勉強会を定期的に開催していきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。施設に防災ラジオを設置しており早い段階で災害に備える。又、昨年に近隣の民家が火事になり施設内の雨水を消火活動に使用されました。	消防署立ち会いの下、昼間想定で、初期消火、通報訓練、スプリンクラーチェック等行い、避難訓練は実際に、屋上の非常口まで出ている。また、AED講習を受けており、訓練も行っている。備蓄は水、アルファ米、スープ類の缶詰、防災ラジオ、カセットコンロ等を用意している。自治会と、防災協定を結んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話しの否定はせず、分かりやすい声掛けに努めている。訪室の際はノックして声かけしてから入室しております。又、汚れたリハビリパンツ等は他者の目に触れないように新聞紙で包んで破棄しています。	トイレは各居室にあり、声かけには声量や周囲に配慮し、扉を閉める等、プライバシーを尊重した見守りをしている。また、時間にゆとりのある入浴を同性介助で提供している。職員間でも、個人に触れる話題は、直接入居者に聞こえないよう配慮し会話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話から本人の気持ちを聞き出すようにしている。出来るだけ自己決定出来る様に声かけと傾聴に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況や本人の状態を見て出来るだけ希望にそようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方はその日に着る服を選んで頂いたり季節にあった服を着て頂く様に声掛けしております。又、お化粧をされる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理では野菜の皮剥きやもやしのひげとり等、包丁も使える方にはお願いし、食事前後のテーブル拭きや下膳(湯呑み1個でも)又、食後の食器洗い等出来る範囲で行って頂いております。	ユニットごとに、調理形態や食事制限など、個別対応をしながら調理している。職員は少し離れた位置で見守りをし、その方のペースで食事頂いている。季節食やスイーツバイキング等の行事食や、おやつは施設内の厨房から提供。誕生日の際には手作りする事もあり、花見におやつを持参したり、出先で買い、分け合って楽しむ等している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事摂取量を記入し入浴後や、おやつ時に手作りの飲料を飲んで頂いております。水分摂取が少なめの方はゼリーにしたり水分補給に努めております。献立は併設特養管理栄養士が作成しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、入れ歯の方は毎日洗浄剤にて消毒し清潔に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方は排泄表を付けて声かけトイレ誘導を行っております。	トイレでの排泄を目指して自立に向けて支援している。必要な方には記録をとり、時間で誘導したり、様子をみて促している。夜間、3時間おきに巡視、トイレ誘導を行っている。人により、排泄が決まった時間の方もおられ、個別に確認し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時のおやつに牛乳を取り入れた飲み物を提供しており、排便が困難な方は家族よりヨーグルトを持って来て頂いたり主治医に相談し下剤を処方頂き排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間は、緊急時や職員の体制を考慮して行っていないが日中、毎日入浴したい方や入浴を嫌がる方もみえますので出来る限り気持ちに添うようにしております。	週3回、30分を目安に入浴。ゆったりと入って頂けるように、午前と午後に分けている。湯も一度入れ替える。毎日の入浴や順番の希望に対応し、自宅に近い入浴方法が実現出来るよう支援している。拒否の方には、時間や日をずらす、担当や入浴方法の変更など工夫して支援。マットや消耗品はご本人の持ち物を使用。入浴後は、お茶やイオン水で水分補給している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は自由にされており就寝前はパジャマに着替えて頂いております。夜間は巡回を定時に行っており、活動される方にはその都度対応しております。室温や明るさにも注意しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診で薬が変更の場合は申し送りノートにて確認している。服薬表があり誰がどれだけ服用しているか分かるようになっている。又、個別ファイルに薬の情報を綴じて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝のラジオ体操はユニット合同で行い日々のレクリエーションも午前・午後と行われ楽しく過ごされておられます。又、毎月の行事担当があり担当者はその月にあった行事を企画している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	インフルエンザが流行する時期は感染症予防の為外出を控えております。近くにお店も少なくジャスコへ出かけた後家族の協力を頂きながら動物園に出かけている。	日常の外出には、季節により午前や午後などに近所の公園へ散歩したり、花壇の水やりをしている。月に1～2回は、大型スーパー(イオン)へ出かけて好みの買い物を楽しみ、動物園や法人の文化祭へ、家族の協力を得ながら、なるべく全員で出かけられるよう支援している。その他、法人で開催されるボランティアのコンサートや夏祭りへも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	10000円程度のお小遣いを預かっており管理が困難な方が多い為職員が支援してまです。状況に応じて本人に持って頂いている方もいます。月1回程度買い物へ行き金銭の取り扱いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の手芸ボランティアにて年賀状作成しそれぞれの思いをかかれました。電話については希望があれば応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁紙を作ったり居室入り口に飾っている。季節や時間に応じて室温調節や光の調節を行っている。	ひな飾りなど、季節を感じる装飾がされている。毎月職員が下準備している、大作の貼り絵の制作物や、手作り日めくりカレンダーがある。法人の文化祭へ出品した、ぬりえや書道、折り紙作品が飾られ、BGMに演歌が流れている。除菌機が置かれ、玄関ホールでは、来客用の手洗い、うがいコップが備えられている。検温も行い、徹底した感染予防の配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は自由に過ごされ相性を見ながら席替えも行っております。食堂の場所以外に団らんスペースを用意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には表札がある。入居時に馴染みの家具を持って来ていただく様お願いしている。	居室内にトイレと洗面所の設置があり、プライバシーが確保されている。一室の面積が約15㎡あり、ゆとりある広さがある。入居者の担当の職員がおり、衣替えや備品等の補充確認を行っている。掃除等、家事全般を入居者も共に行っている。シーツは週1度の間隔で交換している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアやフリーで福祉用具を適宜導入して自立した生活を促しています。		

(別紙4(2))

事業所名 カサデヴェルデ

目標達成計画

作成日: 平成 26年 3月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議の開催回数が少ない	年間6回の開催実施	運営推進会議を通じて勉強会等行い地域貢献していきたい。	12ヶ月
2		地域交流が少ない	地域との関わりを出来る限り持つ	地域回覧板を通じて地域行事参加や施設の催し等の参加を促す。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。